



## 新しい歯科病院への期待と責任

病院長 宮崎 真至

新校舎の第一期工事は、外装についてはほぼ完了しており、内部の各種設備ともに付属歯科病院においては歯科診療用ユニットの設置等が進められることとなります。本年10月1日の新病院に向けて、施工業者から私たちにいよいよバトンが渡され、現在の病院校舎（2号館）からの引っ越し作業を本格化する時となりました。

現在、新校舎への引っ越しのための準備としてワーキンググループが立ち上げられ、幾度かの会合を重ねております。なんとといっても、50年ぶりの新校舎引っ越しという大事業ですので、暗中模索という状況の中でありながら、確実に作業を進める準備をしていかななくてはなりません。そのためにも、教職員が一丸となって事に当たる必要があります。想定していない案件も生じるものと思われそうですが、柔軟な思考とともに歯学部として一致団結した強靱な意志のもと、必ずや多くの問題を乗り越えられるものと思っています。また、学生にとっては、学修環境の変化などが生じることが予想されます。とくに病院としては、スチューデントドクターの充実した診療参加型臨床実習の継続を常に念頭に置きつつ、通院されている患者さんへの継続した医療提供に努める所存です。教職員とともに、学生を含めた歯学部全員で、新しい病院を創りあげることができるものと期しております。

(教授 歯科保存学第Ⅰ講座)



## 歯学部開講式

平成30年度歯学部開講式は、4月2日（月）全電通ホールにおいて、新入生128名を迎えて挙行されました。

本田和也歯学部長より、「本学部は、平成28年に創設100周年を迎えた歯学の伝統校である。新入生には、日本大学の教育理念『自主創造』と、歯学部創設者の佐藤運雄博士が建学時に唱えられた教育理念『医歯一元論』に基づき、人間性豊かな歯科医師を目指してほしい。また、課外活動にも積極的に参加し、互いに切磋琢磨しあえる多くの友人を作り、有意義な学生生活を送ってほしい。」との式辞がありました。

また、来賓を代表して、横江順後援会会長が祝辞を述べられ、続いて在校生を代表して小野敏英さん（第6学年）が「歓迎の詞」を、新入生を代表して御子柴杏梨さんが「誓いの詞」を述べました。



小野敏英さん（第6学年）

御子柴杏梨さん（第1学年）

### 【新入生128名の内訳】

男子72名(56.3%)、女子56名(43.7%)、現役64名(50.0%)、既卒等64名(50.0%) 一般入学試験入学者69名(A方式61名、C方式第1期5名、C方式第2期2名、N方式1名) 校友子女入学試験入学者27名、一般推薦(公募制)入学試験入学者7名、付属高校からの推薦入学試験入学者25名、外国人留学生入学試験入学者0名

**出身高校数103校:**江戸川学園取手 4名、国府台女子学院、白百合学園、日本大学鶴ヶ丘、日本大学豊山、日本大学第二 各3名、宮城第一、暁星、國學院、駒込、獨協、女子聖学院、桐蔭学園、明星、札幌日本大学、土浦日本大学中等教育、日本大学第一、長野日本大学 各2名、ほか85校

**出身地31都道府県等:**東京48名、茨城12名、神奈川9名、千葉6名、北海道、福島 各5名、宮城、埼玉、長野 各4名、静岡、愛媛 各3名、山形、大阪、広島、宮崎 各2名、青森、栃木、群馬、新潟、富山、福井、山梨、岐阜、三重、京都、和歌山、島根、高知、福岡、鹿児島、沖縄、各1名

## 大学院歯学研究科開講式

平成30年度大学院歯学研究科開講式は、新入生42名（うち社会人15名）を迎え、本田和也歯学研究科長をはじめ関係教職員の出席のもと、4月9日（月）本学部4号館大会議室において挙行されました。厳粛な雰囲気の中、本田和也歯学研究科長からの式辞、続いて佐藤秀一研究担当からの祝辞がありました。新入生を代表して村上尚希さんが「誓いの詞」を述べ、式終了後には修学及び研究等についてガイダンスが行われました。



## 既卒生に対する国家試験合格支援活動

国家試験合格支援小委員会

外木 守雄、林 誠、田中 秀樹

歯学部同窓会の活動の一環として昨年度発足した国家試験合格支援小委員会は、マッチングの支援、夏の激励会、特別講義の実施など1年を通じて既卒生のサポートを行って参りました。その締めくくりとして、今年の第111回国家試験に合格した既卒生を祝う会が霞が関の霞山会館で4月22日に開催されました。小幡同窓会長、本田学部長からのお祝いの言葉を頂き、22名の参加者は厳しい試験を乗り越えた喜びを分かち合っていました。





## 登院式を終えて

恒川 瑞季

4月2日に3号館第5講堂で登院式が行われました。本学に入学してから4年間の学修の上、OSCE、CBTを突破し、無事に登院式を迎えることができました。現在5年生は129名がスチューデントドクターとして臨床実習に臨んでいます。

これまでの4年間で学修した知識や技術は、歯科医師になるために必要不可欠なものであり、日々その目標に少しずつ近づいている安心感と同時に、瞬く間に過ぎ去る時間への焦りも交錯していました。また、登院式の前から年々難しくなる国試、指導医の先生方や患者さんとの人間関係や精神的・肉体的不安など、これから始まる院内実習への不安がありました。しかし、現在は忙しくも充実した実習環境により、有意義な時間を過ごせております。

5年生になり、先生方の診療を間近で見ること、今まで学修してきた知識との関連性が見出せ、ようやく学んできた内容が自分のものとして吸収できていることを実感しています。また、新たな疑問点や臨床ならではの問題の発見も多く、指導医の先生に質問し、自ら調べ学修して吸収していくような日々を送っています。同時に、患者さんとのコミュニケーションを通じた信頼関係構築の重要性も痛感しています。

これから、1年間スチューデントドクターとして、臨床の現場で徐々に患者さんに触れていくことが多くなると思いますが、登院式を思い出し、初心を忘れずに努力研鑽していく所存です。 (第5学年)



## 新コラム 医療情報について

### 第2回「地域医療」

尾崎 哲則



6月1日厚生労働省から「人口動態調査(平成27年)」が公表されました。1年間の出生は94万6千人、死亡が134万人で、人口が約40万人減少しました。この傾向は当分続くとされており、高齢年齢人口は今後2040

年ごろまで緩やかに増加するといわれています。また、80%の人が病院で亡くなっています(厚労省調査)。このような人口減少期に、将来に向けて大きな負担をかけて病院を作り続けることはできません。治療による回復が見込めない人を入院させると、病気を治して社会復帰していくための病院としての本質的な機能を果たせなくなります。さらに、介護保険施設も今後暫くは不足しますが、近い将来には、空き施設が出てくる可能性が出てきており、増設はいささか難しい問題です。

一方、内閣府の調査によれば、高齢者のほぼ半数の人が、自宅での介護を希望しています。

以上のようなことが、相俟って、在宅で安心して療養ができるシステムを構築する必要性が出てきたわけです。つまり、在宅療養者が地域で尊厳を持って生活していくために、彼らに必要な医療や介護サービスを適切に提供する地域医療システムです。すなわち、病院などの医療機関での治療やケアの枠組みにとらわれず、地域住民の健康を地域全体で支える医療体制です。

従来の医療も、地域の人を対象にしていたことが、対象者がそれぞれ個別の医療・保健・福祉サービスを受けていました。しかし、ここでいう、地域医療の提供は、基本的には地域それぞれの特性を活かした包括的なものになります。訪問診療を始めると、患者さんの日常の生活が見えてきますし、生活全般を支えようとすると、当然、歯科医師だけではなく、医師、看護師はもちろん、薬剤師、栄養士、そして介護スタッフなど、多様な職種との連携が必要になります。そのために、文章だけのやりとりだけではなく、顔の見える関係になれるように多職種が集まる会議を、月に一度、定期的に行います。各々の職種がどのような仕事をしているのか、退院後の患者さんの様子など、互いに理解を進めながら情報交換をします。このような会議を「地域ケア会議」と呼びます。しかし、この会議への歯科関係者の参加率は高くなく、今後の課題とされています。

(教授 医療人間科学分野)

# 新教授紹介

## 変化に対応する新たな教育を目指して

網干 博文



大学院入学の年の8月、日航機が御巣鷹山に墜落、初めて藤岡市民体育館で多数遺体の身元確認作業を経験しました。その強烈な体験は、後の海外留学先アデレード大学での法医実務をベースとした研究へと私を導き、帰国後

も中華航空機墜落事故を始め、バリ島爆破テロ事件およびスマトラ島沖大地震による津波など、災害時の身元確認作業に参画する大きなきっかけになったように思います。

日本大学助手となってから約30年間、私の教員としての仕事も多様化し、研究・教育以外ではクラス担任を始めとした学生生活関連の委員を、またその後は学務委員会委員を現在まで務めさせて頂いております。

その間、学生が学ぶべき社会歯科学の課題も時事とともに随分、変わってきました。その一例として法医学の分野では、平成24年に死因究明関連法2法（うち一つは時限立法）が成立し、“歯科法医学”、“歯科法医学者”に特化した条文が規定され、またその前年に発生した東日本大震災での遺体の身元確認作業で歯科法医学が大きく寄与したことも追い風となり、第107回歯科医師国家試験からは、新たに歯科法医学関連の問題が出題されるようになりました。さらに共用試験における平成28年度改訂版モデルコアカリキュラムでも、B-2-3) 歯科による個人識別、に②歯科医師による身元確認や関連する死因究明等の制度を説明できる、という学修目標が追加されています。

このように年々変わりつつある教育現場で、私たち教員は自分たちが未経験の新しい教育課程を経た学生達と、日々対峙しています。新たに教員に突き付けられる要求は、増加の一途を辿っているといっても過言ではありません。

私自身も微力ではありますが、歯科法医学の専門家としての経験を活かし、教育に携わる者として時代の変化を咀嚼し、次世代を切り拓く学生を育てるために、新たな教育の方向性を若い先生方と一緒に考えていければと思っています。（法医学講座）

### 【略歴】

昭和60年日本大学歯学部卒業。平成元年日本大学大学院歯学研究科修了。日本大学助手、専任講師、准教授を経て、平成30年4月本学教授。歯学博士。61歳。

## 伝統と先進性の融合

本吉 満



本学の「医学的歯学」の教育理念は、歯学を歯・口腔を全身との関わりにおいて系統的に理解した上で、現在の高度な医療にも対応できる歯科医師を育成することにあると考えます。この理念のもと、6年間の教育の中で学生を優秀な

歯科医師へと育成するためには、私達教職員の教育力の強化が不可欠であり、個々の教員が教育目標を定め、これを達成するための手段を整えていくことが必要です。これに加えて、各学生の感性を刺激してモチベーションを高めて個人の潜在能力を引き出す努力が必要であると考えています。教育ニーズの動向を踏まえ、学生にとってより良い教育環境の場の提供に努めたいと思います。

一方、臨床系の研究者の基本姿勢として、臨床をより発展させるための研究を行なうことが重要であり、研究成果に基づいた臨床を実現することが必要であると考えています。すなわち、日常臨床の中で生じた診断や治療法についての疑問を研究によって明らかにし、EBMに基づいた診療体系を展開していくことが重要であり、このためには基礎研究との連携が不可欠であると考えています。

診療体制については、先人が築かれた従来の伝統的手法を踏襲しつつ、新技術を積極的に取り入れていきたいと考えています。矯正歯科臨床経験に加え、歯科矯正用アンカースクリューの開発に携わった経験を活かし、比較的容易なチタンミニスクリューの埋入手術から、難度の高い埋入手術、頬骨歯槽稜や下顎側側骨へのアンカープレートの埋入手術を行い、予知性の高い確実な治療結果を得ることに貢献してきました。このような外科処置を矯正歯科医が行なうことのメリットは大きく、矯正歯科治療の診断に基づいた的確な位置への正確な埋入を行なうことにより、より高い精度で患者の協力性に依存することなく治療目標に到達することができます。今後はさらに外科的侵襲の少ない骨内固定システムの開発や新しい矯正治療技術の開発に努めていきたいと考えています。（歯科矯正学講座）

### 【略歴】

昭和59年日本大学松戸歯学部卒業。平成4年日本大学助手、米国アラバマ州立大学客員研究員、日本大学専任講師、准教授を経て平成30年4月本学教授。歯学博士。58歳。



## 日本大学の仲間とめざす。



升谷 滋行

本年度から総合歯科学分野の教授を拝命いたしました。

自己を確立し成人となる基礎を培う重要な青年期を、日本大学付属校で学び、その後も一貫した教育体制の日本大学へ進学しました。幸運にも本学に奉職でき歯学部勤務となり、今日の自分が形成されたと考えております。

大学院修了後、歯科保存学第Ⅰ講座（保存学教室修復学講座）助手としてスキンナー歯科材料学の著者である米国インディアナ大学歯学部材料学教室 Ralph W. Phillips 教授のもとへ歯科修復材料研究のために派遣された2年間をも含め、中学校から現在に至るまで、50年以上の長きにわたり人生の大半を、総合大学、日本大学の仲間のひとりとして生活してることができました。

その間に本学から受けた恩に感謝し、報いる方法は、教員として日本大学で身につけた総合的な教養と歯科学の専門教育に教員経験で培った能力、技術ノウハウを融合させ、これからの日本の歯科界そして世界へ羽ばたく本学部の仲間たちである学生、研修歯科医、同僚、組織への支援をすることであると考えています。

歯科材料研究から学部間連携研究に携わり、平成18年度からの歯科医師臨床研修制度に対応した卒直後研修科の設立を契機に（現）総合診療科における研修歯科医の指導から始まった、学生教育の分野に関わってきました。そして現在では学部全体の教学IRに関与できる立場にまで認めていただき感謝に堪えません。同時にその責任の重さを今更ながら痛感しています。

本学部に就業できる期間は短いですが、自分の持てる物をすべて、前途ある仲間に伝えたいと思っています。次世代への継承が、今の自分の責務であると自覚して、「研修歯科医（学生、学部、大学）のために、自分で考え、自分で行動する」ことをモットーとして掲げ、課題には正面から向き合うことを心がけ、諦めずやり抜く（GRIT）、自立した、考える歯科医、教員であり続けることを目指し、協働して本学部の将来を明るくするよう、今後も惜しまず努力する所存です。（総合歯科学分野）

### 【略 歴】

日本大学歯学部卒業、日本大学大学院歯学研究科修了。助手、講師、助教授、准教授、診療教授を経て、総合歯科学分野教授。歯学博士。



## 『『岩宿』の発見』

相沢 忠洋著

酒井 秀嗣

相沢忠洋が国立大学の教壇に招かれたと報じられたのは1972年ではなかったろうか。義務教育のみの学歴に疑念を呈する新聞記者に、学長は「首相官邸に行って総理大臣になるための資格を尋ねて下さい」と切り返したそうである。時の首相は小学校しか出ていない田中角栄であった。

幼くして一家離散の憂き目に遭った相沢は、丁稚奉公先から夜間の小学校に通った。この時代に考古学への



相沢忠洋記念館（群馬県桐生市）

夢を育み、戦後になって故郷である群馬県の赤城山麓で遺跡を探し求めた。彼の生活振りは安定や蓄財とは対極で、発掘の時間を得るために敢えて納豆の行商で糊口を凌いだ。そして遂に、切り通しに露出した数万年前の関東ローム層の赤土層から人の手が加わった石器を発見した。縄文時代の前には日本に歴史は無かったという考古学界の定説を覆し、活発な火山活動で降灰が続く時代に人類が存在した証を得たのである。しかし、大学の研究者達は市井の研究者には懐疑的であった。唯一興味を示したM大のチームだけが共同で発掘を行い、同所の赤土の層からさらに石器の収集に成功した。これが岩宿遺跡である。この発掘はM大助教授の成果として新聞に大きく報じられたが、相沢の名は活字にはならなかった。それまでの地元の考古学愛好者達からの誹謗や中傷に加えて、今度は研究者の名誉欲や学界の派閥争いの中で翻弄されることにもなった。しかし、彼の探求姿勢はこうした不条理にもぶれること無く、ついには高い評価を得るに至った。旧石器時代への扉をこじ開けた相沢の業績は、現在では大森貝塚を発見したモースと並称されている。

奥様に会って、「赤土の時代の古代人はどこから渡来したのでしょうか」と何うと、「相沢は日本にも原人がいたと話していました。そんな口マンがあったっていいじゃないですか」とおっしゃる。没後も彼の夢は続いている。（准教授 基礎自然科学分野）

# 第111回歯科医師国家試験の結果について

学習指導委員会副委員長 黒川 弘康

## ●難化する歯科医師国家試験

厚生労働省は3月19日、第111回歯科医師国家試験の結果を発表しました。今年度は受験者総数が3,159名であったのに対し、合格者総数は2,039名と、3年ぶりに2,000人を上回る結果となりました。しかし、第107回歯科医師国家試験以降の“2,000人前後の合格者数”に変化はなく、歯科医師国家試験が競争試験化していることは明らかです。一方、全国平均の合格率は64.5%（新卒77.9%、既卒43.5%）、国公私大別では、私立60.0%であるのに対し、本学部の合格率は67.2%（新卒71.1%、既卒59.3%）でした。とくに本学部の新卒者の合格率は、昨年比べて9.4%上回る結果となりました。

近年、厚生労働省は合格率算出の母数となる受験者数以外に、試験に出願をした出願者数を発表しています。下図の棒グラフは出願者数と受験者数との差を示しており、この差が大きいほど、厚生労働省に受験の出願はしたが、実際には歯科医師国家試験を受験しなかった（できなかった）学生の数が多いことになります。新卒におけるこの差の総数は、私大17校で計531名にもものぼり、大部分の私大が合格率を上げるためにこの数を大幅に増やす傾向が認められます。ちなみに、合格者数を受験者数で割った値を算出すると、新卒の私大合格率は52.8%であり、本学部では67.2%と、これを大きく上回る結果となり、私大中で第2位の成績でした（下図の折れ線グラフを参照）。

本学部では、平成27年度より共用試験あるいは歯科医師国家試験に対応し得る学生の学力向上を目指し、各学年に歯科学統合演習が配置されました。とくに、6年生の歯科学統合演習Ⅵは国家試験の可否と高い相関性があることから、平成29年度は統合試験Ⅵの成

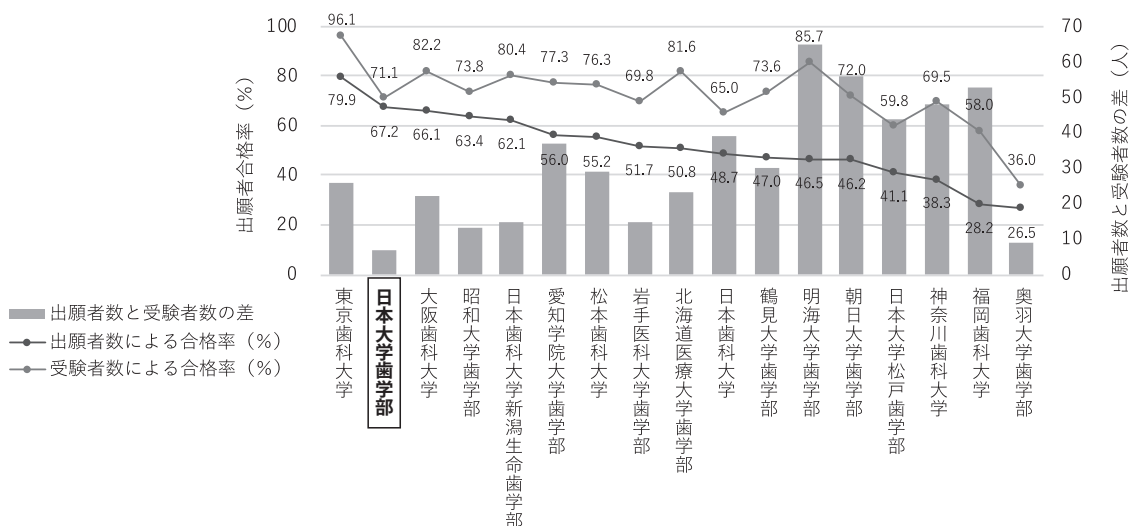
績不振者に対して、小グループでの学修支援を積極的に行いました。学習指導委員会では歯科学統合演習Ⅵのさらなる充実を図るとともに、学生全体を対象とした授業形態とは別に、学生一人ひとりの学修進度に応じた学修支援を継続していきます。

## ●基本的な知識と柔軟な問題解決能力

第111回の歯科医師国家試験を分析すると、摂食・嚥下障害や全身疾患など、歯科領域にとどまらず、医科の領域にまたがる内容の出題が増加しています。これは、歯学教育モデル・コア・カリキュラム（平成28年度改訂版）の基本理念である「多様なニーズに対応できる歯科医師の養成」と合致するものであり、口腔領域だけでなく、全身も診ることができる歯科医師が求められていることが分かります。また、具体的な臨床手技や手順に関する問題も引き続き出題されており、歯科医師として必要な基本的知識を有するのはもちろんのこと、実際の臨床で遭遇するであろう、さまざまな状況に対応するために、これらの知識をどのように活かすか、その応用力が求められています。

歯科学統合演習は、学生の皆さんが在籍学年で修得した教育到達度を振り返ることで、総復習するとともに、6年間の縦断的な演習教科とすることで、系統立てて知識の整理ができるよう構成されています。自ら積極的に学修し、理解することで得た知識を蓄積することが大切であり、多くの引き出しを持つことで、過去の国家試験問題を暗記するだけでは解答が導けないような問題にも対応することが可能となるはずですが、6年次から国家試験の勉強を始めても間に合いません。学生の皆さんは、基本的な知識と柔軟な問題解決能力を修得するために、低学年からの努力を怠らないでください。（准教授 歯科保存学第Ⅰ講座）

第111回歯科医師国家試験 出願者合格率（新卒）





## 研修歯科医の採用について



卒後教育担当 外木 守雄  
(教授 口腔外科学講座)

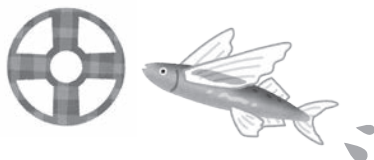
総合診療科長 紙本 篤  
(准教授 総合歯科学分野)

当病院における歯科医師臨床研修制度は、今年で12年目を迎えます。これまでに当院の研修を修了した研修歯科医は1000名を超

え、研修修了後も様々な分野で活躍しており、伝統のある当プログラムの評価が反映されているものと考えます。平成28年度の厚生労働省省令の一部改正により「到達目標の達成に必要な症例数や研修内容」および「修了判定の評価を行う項目や基準」が研修プログラムに追記され、研修内容の標準化が図られました。また、年次報告においては「研修歯科医の指導体制」、「研修歯科医が経験した平均症例数」、「あらかじめ設定した症例数を達成した研修歯科医の割合」などが追加され、より具体的な項目が求められるようになりました。

当院での研修体制は、附属歯科病院の指導歯科医168名と131カ所の協力型施設を擁しており（平成30年6月現在）、研修歯科医は様々な専門性を身につけることができるほか、生きた地域歯科医療を学ぶことが可能になります。管理型での各診療科における専門診療部研修期間は、昨年と同様にプログラム1-Bが4-6月、プログラム2が5-12月、プログラム1-Aが1-3月となっております。研修修了時に必要とされる症例数が年々増加していることへの対応として、当プログラムでも研修歯科医を各診療科へ少数配属することにより、積極的に診療に参加できるシステムとなっております。また、今年10月に予定されている新病院移転についても配慮されており、研修内容のスムーズな移行が期待されています。

昨今の歯学教育では、臨床経験を重視した診療参加型教育の充実が求められています。我々指導歯科医は、医療人として自覚をもち、質の高い治療を提供できる歯科医を育成する必要があります。このため研修歯科医の採用は、学生生活態度や実習に対する姿勢を踏まえ、医療人として当院にふさわしい人材を採用していきたいと考えております。



## 歯科医師臨床研修を終えて

吉中 雄太

一年間の臨床研修はとても充実していました。

私は三ヶ月間は大学で研修を行い、八ヶ月間は外部の協力型施設にて研修をさせていただくプログラムでしたので、大学での理想を追求した治療と、地域に密着した歯科診療所の治療のどちらも経験することができました。

研修を終えても出来るようになったことは本当に最低限ですが、これからの歯科医師人生にとってかけがえの無い一年間を過ごすことが出来たように思います。  
(本学部卒業 歯科保存学第I講座)



## 歯科医師臨床研修を終えて

神保安妃子

私は、日本大学松戸歯学部出身で日本大学歯学部の研修医プログラムに参加させて頂きました。全く初めての環境で不安もありましたが、周りの方々の暖かいサポートもあり、有意義な研修医生活を送ることができました。一般診療はもちろんの事、離島研修などここでしか体験できない貴重な経験をさせて頂き、歯科医師人生の良いスタートをきる事が出来ました。この一年間の経験を糧に、素敵な歯科医師になれるよう努力していきたいと思っております。

(他学部卒業 小児歯科学講座)



## 平成30年度 歯学部第1回公開講座

中島 一郎

5月26日(土)に第3講堂において平成30年度歯学部第1回公開講座が開催されました。日本大学歯学部では、「口腔保健と全身の健康シリーズ」と題して年2回、春季と秋季に本公開講座を開催しています。

第1回講演は「きれいな歯並びはどのようにできる?—食べ方・かみ合わせの発達と歯並び治療の実際—」という演題でした。本講演は、ここ数年の公開講座の参加者の要望(アンケート調査による)として、低年齢児の歯列咬合の診断・治療や、成人期からの本格的矯正治療等に対する関心が高まりつつあることを受けて企画されました。



本学部の歯科矯正学講座からは本吉満教授に、小児歯科講座からは、高森一乗専任講師に講師を担当して戴きました。高森先生と本吉先生からは、小児歯科学・歯科矯正学分野の基礎知識をもとに、小児の食べ物とそのとり方・歯の生え方・噛み合わせの口腔機能の発達や顎・顔面発育のメカニズムについて詳細な解説がなされました。それらを踏まえ、小児と成人の歯並び治療(咬合誘導・矯正治療)の症例や最新の診療内容に関する情報が提供されました。乳幼児・小児期から成人期に至る専門診療の必要性について、一般の参加者にとって、解りやすく、かつ有益な内容でまとめられていました。

このように企画・広報委員会では、これからも参加者アンケートのご要望を反映した公開講座に努めて参ります。関係各位のご協力をお願いいたします。  
(教授 医療人間科学分野)

## 歯学部後援会総会

6月16日(土)、父母を会員とする歯学部後援会総会が開催されました。

開催に先立ち、本田学部長、横江後援会会長より挨拶があり、鈴木学務担当からは国家試験の結果報告と本学部の取組みについての話がありました。

総会の議事である平成29年度決算及び事業報告、平成30年度の予算案および事業計画、役員選出に関する件等すべての案件が承認されました。その後行われた学年別懇談会では学年主任及びクラス担任より学生生活や今年度の予定等が報告されました。

## 第70回日本大学 歯学会総会・学術大会

5月20日(日)、歯学部大講堂において、日本大学歯学会総会・学術大会が行われました。学術大会での発表演題数は特別講演2題と一般講演18題でした。特別講演では薬理学講座小林真之教授が「島皮質における口腔感覚情報の統合的理解—エビデンスに基づいた治療法の開発に向けて—」、口腔外科学講座金子忠良教授が「最新の口腔悪性腫瘍治療についての検討」を発表されました。また、一般講演ではこれまで研鑽した研究の成果を発表することで、若手研究者にとって有意義な場となりました。

総会では平成29年度決算・平成30年度予算を含む全案件が承認されたほか、奨励賞授与式が挙行され、金子茉莉(歯科矯正学講座)、昔農淳平(摂食機能療法学講座)、村山翔太(歯科保存学第Ⅱ講座)、築根直哉(歯科保存学第Ⅲ講座)の大学院生4名が表彰されました。

## 実験動物慰霊祭

4月21日(土)、歯学部実験動物慰霊祭が両国の回向院で執り行われました。春の暖かい気候のなか、教職員、大学院生、学部学生ら百名近くが参加。副住職からの法話の後、心身に染み渡る読経に続き、本田学部長、平野事務局長の指名焼香と参列者の焼香が行われ、本学部の教育や研究のために供された動物の冥福を祈りました。慰霊祭を終えるにあたり本田学部長は、参列への御礼を述べ、「動物実験は医学の研究・教育の発展に必要不可欠なものであるが、3Rの原則(代替・削減・改善)を再認識し、実験動物への感謝の気持ちを忘れずに日々の研究・教育に取り組んでほしい」と挨拶されました。





## 新入生オリエンテーション

第1学年主任 本吉 満

4月2日 満開の桜の下、新入生を対象に校内でのオリエンテーションが行われました。午前中にはカリキュラム説明やクラス担任等の紹介が行われた後、午後には全電通ホールに移動して開講式が行われました。その後も今後学生生活を送る上での細かい注意や説明があり、校内見学や写真撮影を行うなど、初日から終日盛りだくさんな内容でした。少し疲れたような様子も見られましたが、皆希望に満ちた表情をしていて初々しさを感じました。

4月20日、21日には軽井沢研修施設において校外オリエンテーションが行われました。当日はちょうど軽井沢周辺の桜が満開で、また晴天にも恵まれて日中は汗ばむほどでした。軽井沢に到着後、バスを降りた学生は1グループ11~12名、全12グループに分かれて、それぞれ自分たちが決めたテーマに向けて、動画作成を行いました。私たち主任・担任は、旧軽井沢の街中を、新入生グループに同行して回りました。史跡や観光スポットに立ち寄って現地の人々に取材交渉をしたり、話を聞いたり、とても積極的に課題に取り組む学生の姿をみることができました。とにかく元気な学生、おとなしい学生、黙々と頑張る学生など、それぞれ個性はありますが、こうして積極性を持って問題を解決しようとする姿勢は、将来歯科医師になる上での学業を進めていくために、とても有意義であったと思います。動画の編集作業などをグループ内での意見をまとめながら進めていくことで、互いに結束力が深まったのではないのでしょうか。新入生にとって、今回の研修はとても良い思い出の1ページになったものと確信しています。最後に企画運営していただきました先生方、大学院生、職員の方々に感謝申し上げます。(教授 歯科矯正学講座)

## オリエンテーションⅠ

前田 匠

私たちは将来の明確な目標である歯科医師を目指し日本大学歯学部に入りました。4月2日のオリエンテーションでは、歴史と伝統を誇る本学部で修学するにあたり、今後の学生生活について各先生方からお話を頂きました。決して楽ではなく、寧ろ困難であると思われる6年間を充実させたいという思いが、私の中で強く込み上げました。さらに近年の歯科医師国家試験の現状を知ることで危機感も感じました。しかしながら、先生方からの激励を受けて、日々学修に励むことを誓い、個々が理想とする歯科医師を目指

していくと同時に部活動等との文武両道を実現しようと思えた貴重な一日であったと思います。加えて、解剖学実習の教室などを見学し、医療の世界に立とうとしているということ強く実感しました。

日本大学歯学部生としての自覚と誇り、そして医療人になるという意識を常に持ち続けながら、理想は違えど、新入生全員で立派な歯科医師になるという目標を達成したいと強く考えています。(第1学年)



## オリエンテーションⅡ

小堀 聖香

私たち新入生は4月20日、21日に軽井沢研修所で行われたオリエンテーションに参加しました。1日目はグループ別企画として、「旧軽井沢を知る」をテーマに動画を作成しました。限られた時間の中で撮影、翌日も早朝から編集を続け、なんとか発表に間に合わせる事ができました。より良いものになるよう、グループの仲間と忌憚なく意見を交わし、結束し行動することが出来ました。全体企画では3人の先生方が「歯科医師の未来」と題し、卒業後に歯科医師としてどのような道を歩かれたか、スライドを交えながら具体的なお話をしてくださいました。知らなかった様々な道があり、不鮮明だった自分の歯科医師としての将来を考える貴重な機会となりました。

大学生活が始まったばかりの時期に、このような企画を通して同級生との親交を深めることが出来ました。ご指導いただきました先生方、大学院生の先輩方、ありがとうございました。(第1学年)



# オピニオン

○大学生活が始まり、約3ヶ月経った今日、今までよりも生活が充実するようになった。高校とは全く異なる大学の講義、本格的に始まった部活動などで忙しい日々だが、多くの友人ができ、互いに切磋琢磨して物事に取り組む、楽しい日々でもある。6年間は始まったばかりだが、日々を無駄にすることなく、大切に過ごしていきたい。 **(1年 太田 龍)**

○私は軽井沢での校外オリエンテーション2日目の朝、急性中耳炎になった。鼓膜を切開するような大事になったため、有名人になってしまった。それ以来、先生方や先輩方から頻りに声をかけられるようになり、すっかり顔を覚えてもらった。災い転じて福となす。現在は快方に向かっている。皆さん、ご心配をおかけしました。 **(1年 高坂 彩乃)**

○1年生の時は、学んだことを反復していた。いつの間にか、勉強することの意義が漠然としていた。2年生になり、自らが問題を見つけ考察する学問の大切さに気づかされた。また知り得なかった知識を習得し、「学ぶ」ことに楽しさを見出すことができた。歯学を志し、研鑽を重ねていきたい。 **(2年 横山 裕乙)**

○昨年とは学習内容が一変し、時間に追われる毎日です。勉強机に小さなホワイトボードを置き、そこにやるべき事をリスト化して書いておくことで、勉強し忘れることが無いようにしています。ホワイトボードに書いた文字が全て消えた時に進級していることを想像しながら、日々勉強に邁進したいと思います。 **(2年 吉川 可菜)**

○3年生は専門科目の授業や臨床に即した実習が多く、歯科医師になるための本格的な勉強が始まった。国家試験まであと4年だが、この2年が早く感じたように月日が過ぎるのは早い。効率よく長期記憶に留められるような勉強方法を探求しようと思う。部活では先輩方を見習って出来ることは率先して行い、役に立てるようにになりたい。 **(3年 道下 詩織)**

○第3学年では、学ぶ内容がこれまでの基礎科目から専門科目に変わり、クラブ活動では中心となって動く学年になりました。そのため、今までとは求められる能力や責任も変わってきます。それと同時に、大学生活の折り返しの学年でもあるので、学業やクラブ活動は然ることながら友と過ごせる時間も大切にしていきたいと思います。 **(3年 峯村 祐貴)**

○考えてみると、入学して4年目になりました。私はいつも親しい友人と共に楽しく過ごしています。毎回私が落ち込んでいるときに、なぐさめてくれます。和やかな空間を提供してくれる友人に感謝しています。みんなでCBTとOSCEを合格して来年院内実習に励みたいです。 **(4年 川間 七海)**

○4年生になり先生方がCBTやOSCEの話を講義や実習でして下さる事が多くなった。試験は年明けなので、まだイメージは湧かないが今のうちから三年生まで学んだ事を復習していきたいと思う。部活や委員会でも後輩が増えてきて、頼られたり相談されたりすることも増えてきたので勉強だけではなく課外活動にも打ち込んでいきたい。 **(4年 篠山 和希)**

○学年が上がるにつれて、時間の経過の早さを身近に感じるようになりました。ついこの前に入学したと思ったら、あっという間に大学生活も5年目を迎え、登院してから早くも約3か月が経ちました。クラブ活動も今年の夏で集大成を迎えようとしています。何事も全力で頑張っていきたいです。 **(5年 高橋 侃志)**

○長い長い学生生活を経て、やっと登院を迎えました。4月から院内実習が始まり、約3か月が経とうとしています。まだまだ慣れないことが多いですが、先生方のご指導を受け精一杯努力していこうと思います。また、クラブ活動もやっているの、文武両道を目指して努力をしていこうと思います。 **(5年 藤井 祐人)**

○第6学年となり、国家試験の勉強のために机に向かって座る時間が増えてきている。知識が増えていくのと同時に、筋力の衰えを感じざるを得ない毎日であり、やはり生活の中に筋トレは必要であると感じる。今年1年、勉強と筋トレでアタマとカラダ両方を鍛えたい。みなさんも一緒にアタマとカラダを鍛えませんか？ **(6年 竹田 弘毅)**

○毎日勉強に追われストレスがたまりませんが、そんな中私が見つけた癒しはチョコレートです。ポリフェノールにはストレスホルモンの分泌を抑える作用があるので、疲れた時に一口食べると、気持ちをリセットできます。勉強の時はチョコレートをそばに置いて、国家試験に向けてがんばります。皆さまも一粒いかがですか？ **(6年 福留 彩音)**



## クラブ協議会から

クラブ協議会会長 加藤 博之



前期も終わりが近づき、充実した日々を送っているのではないのでしょうか。今年も各クラブに多くの新入部員が加わり、間近に迫った全日本歯科学生総合体育大会に向けて、より一段とクラブ活動に活気が増したように感じられます。日本大学歯学

部は近年、総合優勝を逃しています。今年こそは総合優勝を勝ち取るべく、各クラブの練習成果を存分に発揮してください。時には厳しい練習と難しいテストが続く日々に、心が折れそうになる時もあるかもしれませんが、それを仲間と一緒に乗り越える経験が皆さんの将来にきっと役立ちます。なにせよ、優勝というものは気持ちがいいものです。クラブ活動を通じて医療人としての資質を磨いて欲しいと思います。(第5学年)

## 第50回

### 全日本歯科学生総合体育大会

～夏期部門に向けて～

歯学体正評議委員 仮谷 仁志



昨年の12月から始まった第50回歯学体冬期部門も終了し、いよいよ7月末から夏期部門が始まります。本年度も冬期部門ではスキー部が男女総合優勝という好成績を残してくれました。冬期部門の勢いに乗って、夏期部門の各クラブは日々の練習の成果を大会で発揮できるように部員全員で一丸となって頑張っていきましょう。日本大学歯学部はここ3年間で総合準優勝と三位という結果で優勝校とは数ポイント差で総合優勝を逃しています。本大会こそは総合優勝できるよう、また、怪我なく大会を終えることができるよう、夏期部門に出場されるクラブの皆さんのご健闘をお祈りしています。

(第5学年)

## 球技大会を終えて

球技大会実行委員長 瓦井 海年

球技大会が開催場所を河川敷から体育館に移し、5回目の開催となりました。今年の大会は皆様楽しんでいただけましたでしょうか。自分自身、歴史ある大会を運営することに不安を感じていましたが、学生課の方々や教職員の先生方、そして何より実行委員の仲間の協力のおかげで無事大会を終えることができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

来年は球技大会がより一層の盛り上がりを見せてくれることを願っています。(第5学年)



## 学生会から

学生会会長 市川 理沙



去年より学年代表者として様々な活動をさせていただき、今年からは学生会会長として働けることに喜びを感じています。

昨年度はFD委員会の先生方、教務課、学生課の方々にご協力頂き話し合いの機会を設けることができ、様々な意見を交換することができました。また、より良い環境で学生生活を送るための意見箱の設置やロッカーの定期的な清掃など、新しい活動にも力を入れてまいりました。今年度も昨年度の活動を引き続き行いつつ、学業だけでなく部活動や日々の学生生活が更に有意義なものになるように、下級生達に寄り添い活動をしていきたいと思ひます。短い間ですが、学生会会長として誠心誠意努めてまいりますので宜しくお願い致します。(第5学年)



## 桜歯祭にむけて

桜歯祭実行委員長 桐戸 美佳



今年度の桜歯祭は10月5日、6日に行われます。桜歯祭は日本大学歯学部における年に一度の学園祭で、各クラブによる模擬店やカラオケ大会、NU祭の「いちにち歯医者さん」など例年多くの方に足を運んでいただいています。今年は10月に新付属病院が開院されることもあり例年とは異なることに試行錯誤していますが、日本大学歯学部の伝統を受け継ぎつつ、多くの人に我が校の良さを伝え、楽しんでいただける桜歯祭を実行委員一同で作り上げていきたいと考え準備を進めております。例年に引き続きお茶の水アートピクニックとの共同開催も行なう予定です。今年度も多くの皆様のご来場を心よりお待ちしております。(第4学年)

## NU祭に向けて

NU祭実行委員長 松村 達也



今年も桜歯祭と同時にNU祭が開催されます。NU祭とは、日本大学の全学部、全付属高等学校が1つのテーマのもと、各学校の特色を活かした企画を掲げて行う学園祭のことです。歯学部では「いちにち歯医者さん」を開催し、歯科治療の模擬体験や、歯科材料を使用したストラップ作り、記念撮影、歯磨き粉作りなど様々な企画を用意しています。また今年度は例年と異なり、新病院での開催が予定されています。学生はもちろん、ご来場くださった方全員に歯科をより一層身近に感じていただけるよう、実行委員全員で盛り上げていきたいと思っております。是非、友人や家族を誘って御来場ください。お待ちしております。(第5学年)



## 歯学部進学相談会

### ●開催日時

第2回	7月26日(木) 10:00～13:00
第3回	8月18日(土) 10:00～13:00
第4回	8月19日(日) 10:00～13:00
第5回	10月13日(土) 10:00～13:00

※全ての回において、受付開始は9:30を予定しております。

### ●会場

日本大学歯学部4号館 ほか

### ●実施内容

全体説明会(歯学部紹介) 10:00～10:30(予定)  
 模擬授業(第2・3・4回のみ) 10:30～11:00(予定)  
 資料配布、学部要覧・シラバス等の閲覧、過去問題の閲覧、個別進学相談

体験実習(第2・4回のみ)

※体験実習は歯学部ホームページより事前予約してください。

校内見学(第5回のみ)、在校生との対話(第3・4回のみ)

※入退場自由です。ご来場をお待ちしております。

### 【問合せ先】

歯学部 教務課

03-3219-8002 E-mail: de.academic@nihon-u.ac.jp

## 歯学部附属専門学校進学相談会

### ●開催日時

第2回	7月29日(日) 10:00～13:00
第3回	8月18日(土) 10:00～13:00
第4回	9月15日(土) 10:00～13:00
第5回	10月6日(土) 10:00～13:00

※10月6日(土)については、個別相談と学校見学のみ実施  
 学部祭(桜歯祭・駿技祭・翔衛祭・NU祭)と同時開催

### ●会場

日本大学歯学部1号館 ほか

### ●実施内容

専門学校専任教員による個別進学相談、学校案内配布、過去入試問題、授業計画などの各種資料の閲覧、講堂や実習室などの校内見学及び、体験実習を実施。

#### 《歯科技工専門学校》

(第2～4回) 体験実習…随時  
 校内見学…随時

#### 《歯科衛生専門学校》

(第2～4回) 在校生に、キャンパスライフについて直接質問が可

(第2～4回) 体験実習…11:00～(1日1回)  
 校内見学…随時

### 【問合せ先】

附属専門学校 専門学校事務室

03-3219-8007 E-mail: de.ts@nihon-u.ac.jp



■ 附属専門学校から

## 歯科技工専門学校

今春、平成29年度卒業生は18名全員が歯科技工士国家試験に合格し、歯科技工所等への就業や科目等履修生への進学と、それぞれのキャリアをスタートしました。

4月には12名の新入生が入学しました。聞き慣れない専門用語や、初めて見たり触れたりする器具や材料の取扱いに四苦八苦しながらも、とても充実した学生生活を送っています。第2学年、第3学年も新学期を迎え、それぞれが新たな目標に向かって日々研鑽を積んでいます。過日行われた球技大会では、3学年が連合チームとして出場し、学年を越えて協力し合うことで親交を深めることができました。



## 歯科衛生専門学校

平成30年度の在校生は現在、第1学年37名、第2学年37名、第3学年36名の計110名となっています。また、今年度から金井美保先生が新たに本校の教員に加わりました。

第1学年は4月初旬に日本大学軽井沢研修所で1泊2日の校外オリエンテーションを行い、親睦を深めました。第2学年は専門科目の講義や実習が増え、11月の登院に向けて頑張っています。第3学年は卒業研究と並行し病院実習を行うなど忙しいながら充実した日々をおくっています。

5月22日に行われた第44回日本大学歯学部球技大会では学年対抗で第2学年が第1位の栄誉に輝いたのをはじめ、

全学年が入賞をはたしました。

学生たちは学年の枠をこえて仲がよく、毎日が賑やかな校舎となっています。



## NewsPlus α

### ☆クラブ顧問会議

第1回会議が6月14日(木)に開催され、クラブ活動等に関する報告や指導伝達事項について説明があった。

また、平成30年度第6学年の全日本歯科学学生総合体育大会(歯学部)及び夏季クラブ合宿への参加については、下記のとおり報告があった。

- 1 歯学部及び夏季クラブ合宿への参加に関しては、「歯科学総合演習Ⅵa」統合試験Ⅵa①～⑤までの全ての成績で決定する。
- 2 参加条件は、原則として得点率80%以上とする。ただし、全体の平均点を勘案し、この条件を下回ることもある。
- 3 参加条件に満たない者は、速やかにクラブ活動を休止すること。

### ☆第50回全日本歯科学学生総合体育大会(夏期部門)の結団式

7月12日(木)18時00分から大講堂において開催されました。

### ☆夏期期間中(7/14～9/7)の事務取扱等

学部事務取扱時間	
9:00～17:00 ※土・日・祝休業	
図書館開館時間	
7/17～8/17	9:00～17:00
8/20～8/24	9:00～19:00
8/27～9/7	9:00～21:00
※土・日・祝休館	
附属歯科病院	
9:00～17:00(月～金)	
9:00～13:00(土)	

### ☆定期健康診断

5月9日(水)・10日(木)、本学部生、大学院生及び専門学校生を対象として、内科健診、胸部X線間接撮影、尿検査、身長・体重測定、また歯科健診は学部1・2年及び技専1年、衛専1年を対象。なお、学部1年生のみ歯周病検診が実施され、ほぼ100%に近い受診率であった。

## 学 事

### 科学研究費助成事業交付決定者

#### ☆基盤研究(B)

小林 真之

#### ☆基盤研究(C)

中野 善夫	藤田 智史	Cueno Marni	今井 健一
黒川 弘康	高見澤俊樹	清水 康平	大井 良之
岡田 明子	山口 洋子	篠崎 貴弘	坪井 美行
山本 清文	岩田 幸一	津田 啓方	宮崎 真至
武市 収	林 誠	萩原 芳幸	佐藤 秀一
池田 貴之	生木 俊輔	川戸 貴行	二宮 禎
近藤 真啓	久保亜抄子	田邊奈津子	小柳 裕子
濫田 郁子	今村 佳樹	白川 哲夫	田村 宗明
神尾 宜昌			

#### ☆若手研究(B)

中山 潤利	飯野 正義	辻本 暁正	石井 亮
野川 博史	岩田 潤	篠塚 啓二	

#### ☆若手研究

大原 絹代	浦田健太郎	秋田 大輔	武井 浩樹
中谷 有香			

#### ☆研究活動スタート支援

堀貫 恵利	室伏 貴久
-------	-------

平成30年度 大学院歯学研究科入学試験

		1期	2期	計
志願者数	一般	6名	22名	43名
	社会人	0名	15名	
受験者数	一般	6名	22名	43名
	社会人	0名	15名	
合格者数	一般	6名	22名	43名
	社会人	0名	15名	
入学者数	一般	5名	22名	42名
	社会人	0名	15名	

学生生活

特待生と奨学生

= 日本大学特待生 =

第2学年 小見山 奏 (乙)  
 第3学年 水村 敦 (乙)  
 第4学年 青木 良太 (乙)  
 第5学年 滝澤 慧大 (乙)  
 第6学年 氷見 健太 (甲) 富田 有輝 (乙)

= 佐藤奨学生 =

〈第1種〉

(歯学部)

第2学年 新井 智美 大野 理恵 吉川 可菜  
 夏江華瑠奈 山口 祐佳  
 第3学年 篠原 理恵 津村 円華 中野 祥  
 西村 優香 山口 裕史  
 第4学年 北野 晃平 黒沼 英之 中原 莉沙  
 永井佐和子 長崎美緒乃  
 第5学年 青木美和紀 新井田 張 恒川 瑞季  
 張替彩記子 前田 智  
 第6学年 川野 晃誠 佐々木 愛 中ノ森紀子  
 沼田 柚花 前田 真

(歯科技工専門学校)

第2学年 黒田 順子  
 第3学年 近内 満潮

(歯科衛生専門学校)

第2学年 星野 未沙 横山 史  
 第3学年 鈴木りょう 高谷比奈子

〈第2種〉

(歯学部)

第6学年 岩崎 稜平 小澤 祥子 瀬下花菜恵  
 中野 寛 宮崎 樹梨

= 日本大学古田奨学生 =

崔 慶一 (大学院4年次 歯学専攻)

= 日本大学ロバート・F・ケネディ奨学生 =

村山 翔太 (大学院4年次 歯学専攻)

= 歯学部同窓会奨学生 =

(歯学部)

第5学年 瓦井 海年 北島有希子 木村拓紀



**= 学内委員 =**

全学FD委員会委員	
教 授 米山 隆之	4.1
学務委員会委員	
教 授 鈴木 直人	//
平成31年度入学試験管理委員会委員	
教 授 米原 啓之	//

**= 海外派遣 =**

島皮質における慢性疼痛発生メカニズムの解明とその疼痛軽減の 治療基盤の確立研究のためカナダへ	
助 教 山本 清文	5.23 ~ 31.5.22

**= 海外出張 =**

研究打ち合わせ及び講演のため中国へ	
准 教 授 野間 昇	1.24 ~ 1.28
米国固定性補綴学会出席のためアメリカへ	
准 教 授 萩原 芳幸	2.23 ~ 2.26
2018アメリカ疼痛学会科学サミット出席のためアメリカへ	
准 教 授 篠田 雅路	3.3 ~ 3.8
第47回米国歯科研究学会出席及び研究打ち合わせのためアメリカへ	
教 授 宮崎 真至	3.19 ~ 3.23
准 教 授 高見澤俊樹	3.19 ~ 3.26
助 教 辻本 暁正	//
第47回米国歯科研究学会出席のためアメリカへ	
専 任 講 師 池田 貴之	3.20 ~ 3.26
第53回カール・オー・パウチャー補綴学会出席のためアメリカへ	
准 教 授 萩原 芳幸	4.12 ~ 4.16
論文作成のためカナダへ	
助 教 山本 清文	4.18 ~ 4.21
第4回国際歯科会議見本市バンガラデシュ 2018で学術講演のため バンガラデシュへ	
准 教 授 荒木 正夫	4.19 ~ 4.23
第18回アメリカ歯内療法学会出席のためアメリカへ	
准 教 授 野間 昇	4.24 ~ 4.29
イギリスにおける視覚障害者支援に関する実地調査研究同行のため イギリスへ	
准 教 授 佐藤 紀子	5.1 ~ 5.6
講演のため中国へ	
教 授 宮崎 真至	5.3 ~ 5.7

**お知らせ**

**歯学部行事予定**

7月 14日(土) ~ 18日(水) 第6学年定期試験
20日(金) 第5学年定期試験、第1 ~ 4学年前期授業終了
21日(土) 第6学年再試験受験者発表
23日(月) ~ 25日(水) 第6学年再試験
24日(火) 第5学年再試験受験者発表
25日(水) 第5学年再試験
26日(木) 第2回進学相談会
8月 18日(土) 第3回進学相談会
19日(日) 第4回進学相談会
30日(木)・31日(金) 第1 ~ 4学年授業の補講
9月 1日(土) ~ 9月8日(土) 第1 ~ 4学年定期試験
15日(土) 第1 ~ 4学年再試験受験者発表
29日(土) 第1期大学院入学試験
10月 1日(月) 第1 ~ 4学年後期授業開始
4日(木) 日本大学創立記念日
5日(金) 桜歯祭
6日(土) 桜歯祭・父母懇談会
13日(土) 第5回進学相談会

**寄付金の受け入れ**

**= 研究助成金 =**

50万円	クラレノリタケデンタル株式会社 歯科保存学第I講座へ(代表取締役社長 有川 清之殿)	3.30
50万円	ULTRADENT JAPAN株式会社 歯科保存学第I講座へ(代表取締役社長 鍛地 裕司殿)	4.12
50万円	クラレノリタケデンタル株式会社 歯科補綴学第III講座へ(代表取締役社長 有川 清之殿)	4.27
30万円	デンツプライシロナ株式会社 歯科補綴学第III講座へ(代表取締役社長 北本 優子殿)	4.27
50万円	株式会社ジーシー 歯科保存学第I講座へ (代表取締役社長 中尾 潔貴殿)	5.25

**= 佐藤奨学・研究基金 =**

100万円	日本大学歯学部後援会(会長 横江 順殿)	3.30
-------	----------------------	------

**= 同窓会奨学基金 =**

200万円	日本大学歯学部同窓会(会長 小幡 純殿)	3.9
-------	----------------------	-----

**= 学校への補助費として =**

1,381万円	日本大学歯学部後援会(会長 横江 順殿)	3.30
---------	----------------------	------

**学部創設100周年記念事業募金者芳名**

(順不同敬称略)

(平成30年3月1日~平成30年5月31日)

(同窓生) 須川 委洪  
日本大学歯学部第66回卒業生

**募金累計**

(平成30年5月末日現在)

	累計額	累計件数
学生父母	98,330,000円	497件
同窓生	127,481,983円	948件
教職員	64,399,500円	440件
企業	20,555,000円	96件
その他	246,000円	7件
計	311,012,483円	1,988件

**歯学部学生・大学院生・  
両附属専門学校生の皆様へ**

日本大学アメリカンフットボール部に係る一連の問題に関して、歯学部学生、大学院生、両附属専門学校生並びに御父母の皆様にご多大なる御心配をおかけし、学部長として深くお詫び申し上げます。

本学部では、国家試験合格に向け、学生の皆様と日々落ち着いた環境の中で、日々勉学に専念できるよう学部を挙げて支援しております。

また、本学部教職員一同は、創設者 佐藤連雄先生の提唱する「和の精神」をもって、これからも皆様と真摯に向き合っており、教育・研究に取り組んでまいりますので、安心して学生生活を送ってください。

日本大学歯学部長  
本田 和也





**編集後記**

雨の合間に時折照る日差しが少しずつ強くなってきた。通勤中に感じるコンクリートからの照り返しが夏の訪れを感じさせてくれる。雨に濡れた「日本大学歯学部付属歯科病院」の新しい看板に強い日の光が当たり輝いて見える。早くも真夏の熱気と、新病院開院の希望が感じられる。

3月に卒業した6年生は、歯科医師として新たな道を邁進している。4月に入学した1年生は、一回り成長し歯学生らしくなってきた。学生の屈託のないきらきらした笑顔を見ると、自分の学生時代を思い出す。当時はただ夢中に勉強と部活に明け暮れていた気がする。気づいたら御茶ノ水で20年近く生活してきた。私が今の学生を見るように、何年後かに、この学生達がまた後輩を同じような気持ちで見られるのだろうか。皆、現在の自分の輝きにはなかなか気づきにくいものである。日々雑事に追われることで、大切なことを見失いがちだが、「今」を大切に生きていこうと思う。その積み重ねが「未来」なのだから。(R.S)

表紙の写真は佐藤紀子先生（健康科学分野）にご提供頂きました。

第199号 日本大学歯学部発行  
 東京都千代田区神田駿河台1-8-13 TEL 03 (3219) 8001